

1 川西町の弥生遺跡

- ① 出屋敷遺跡 ② 宝院遺跡 ③ 面塚遺跡 ④ 梅戸遺跡(流路からサヌカイト片・弥生土器片) ⑤ 下永東方遺跡(後期後半～古墳初期の方形周溝墓) ⑦ 下永東城遺跡(中期前半の方形周溝墓) ⑨ 三河遺跡(北西に連なる)

(1) 面塚遺跡…弥生中期

水田耕土の下に30cmの砂の滞積土があり、その下に土器片を含む褐色粘質土、その下層に弥生中期の土坑。出土土器は、弥生中期の壺・高杯・甕。

(2) 宝院遺跡(面塚遺跡から100m)

- 式下中学の運動場拡張工事に伴う調査で、東西方向から西北方向の河道が検出され、河道の堆積土から浅い溝(1)と土坑(1)が検出。弥生～古墳前期の土器が出土。
- 給食室の建て替え工事で、サヌカイト片や弥生中期の高杯・甕・鉢と後期の壺・高杯・甕、古墳前期の甕やミニチュア壺が出土。

2 河道(抜粋)

- ① 庵治遺跡の南側・北側に旧流路 ② 伴堂東遺跡の南側に旧流路 ③ 伴堂東遺跡北側、三河遺跡の間に旧流路 ④ 下永東方遺跡の東側に河川、下永東城遺跡との間に旧流路 ⑤ 保津・宮古遺跡の10次調査地点 ⑥ 宮古北遺跡(保津・宮古遺跡3次調査)1次調査地点 ⑦ 十六面・薬王寺遺跡 ⑧ 矢部遺跡 他

(自然堤防：河川の洪水の氾濫時などには、水中の砂やシルトが流路の両側に堆積し、比高2～5mの微高地を形成し、その繰り返しにより河道に沿って連なる帯状自然堤防をつくる。)

3 周辺遺跡

(1) 旧石器～縄文期の遺構

庵治遺跡(国府型ナイフ石器・旧石器)、南六條北ミノ遺跡(河道内より前期・後期土器) 保津・宮古遺跡(有舌尖頭器・後期土器)、矢部遺跡(後期土器)、晩期終末の突帯文土器(伴堂東遺跡、唐古・鍵遺跡、矢部南遺跡、笹鉾山古墳の下層、阪手遺跡、宮古北遺跡) 八尾九原遺跡、

(2) 弥生期

唐古・鍵遺跡、清水風遺跡、羽子田遺跡、八尾九原遺跡、出屋敷遺跡、面塚遺跡、法貴寺北遺跡、保津・宮古遺跡、伴堂東遺跡、宝院遺跡、面塚遺跡、下永東方(しもながひがしほう)遺跡、下永東城(しもながひがしんじょ)遺跡、三河東遺跡、角田(すみだ)遺跡、伴堂遺跡、八条遺跡、八条北遺跡、天理市の前期遺跡(嘉幡(かばた)遺跡・吉田遺跡・海知遺跡)

(3) 古墳期初頭(弥生終末期)

唐古・鍵遺跡、羽子田遺跡、出屋敷遺跡、法貴寺北遺跡、保津・宮古遺跡、伴堂東遺跡、下永東方遺跡、角田(すみだ)遺跡他

配布資料(2)

1 出屋敷遺跡

- (1) 位置 近鉄線結崎駅周辺に広がる。標高 44m。
- (2) 調査 駅東側のスーパーマーケット建設の事前調査で弥生後期（西北方向）の溝が検出。
駅西側の佐々木塚古墳（円墳・5世紀末）の南側のマンション建設に伴う調査で、
 - 弥生前期中葉の溝(1)・土坑(2)。多数の土器片・木製梯子が出土。
 - 庄内期～布留1式期の土坑(6)。東海系の土器を含む庄内式・布留式土器が多数出土。

2 庵治遺跡

- (1) 位置 北西 200mに出屋敷遺跡、南東 700mに清水風遺跡。標高 44m。旧石器後期から中世まで継続する遺跡。南東→北西にのびる微高地。南東 1.8mに唐古・鍵遺跡。
調査地中央の微高地(埋没河道)から南北に緩やかに下る。
- (2) 調査 京奈和自動車道建設に伴う調査(2000年 3500 m²)では、
 - 旧石器時代後期のナイフ形石器(2)
 - 縄文晩期末葉を中心とした遺物包含層(長原式土器、石匙・石錘・スクレイパー、土偶)
 - 弥生中期前半に微高地上に方形周溝墓(6)
 - 弥生終末期～古墳期に、微高地の縁辺に溝(2条)と土坑・井戸や集水施設が多数検出。

3 三河遺跡

- (1) 位置 標高 43～44m、近接する三河東遺跡と一体遺跡。
- (2) 調査 1次調査を中心に2・4次調査で方形周溝墓が検出される。2・3・4・5次調査で庄内期を中心に弥生後期から布留式期の集落遺構が検出される。
 - 1次調査の遺物包含層から弥生前期末土器(甕)が出土。さらに、中期前半～中期後半の方形周溝墓が6基検出され、中期全般の継続した墓域。
 - 4次調査地から弥生後期の方形周溝墓2基検出される。
 - 弥生後期～終末期にかけて、1次調査地は遺構が希薄となるが、2次調査地点を中心に方形周溝墓(1)、土坑(井戸を含む)・溝・竪穴住居状遺構が検出され、一体が集落域・墓域化。

4 三河東遺跡

- (1) 位置 標高 44m。現石見・三河集落を結ぶ微高地の北端に位置する
- (2) 調査 1次調査(60 m²) 中期後半の方形周溝墓(1)が検出される。

5 伴堂東遺跡

- (1) 位置 標高 43mの北西→南東の微高地に立地。北側微高地縁辺部に墓域、南側微高地尾根部分に集落域。

(2) 調査 1次調査・2次調査

- 調査地北端の自然流路から縄文晩期の長原式土器。石鏃などが出土。遺構未検出。
- 弥生前期前半の方形周溝墓をはじめ中期初頭の方形周溝墓(4)が調査地北側に集中。
- 中期後半～後期には、南側を中心に多様な用途の土坑が複数検出され集落域。
- 後期になり遺構の数が減少する。終末期以降は、微高地頂部に大規模の方形周溝墓(3)が築造され、その周囲に土坑・ピットが検出。遺物量が増加し、外来系土器が顕著となる。

6 伴堂遺跡

- (1) 位置 伴堂池北東隅の調査、北 60mに伴堂東遺跡。自然河道上の微高地。標高 43m。
- (2) 調査 弥生前期井戸(1)、前期後半の貯蔵穴(1)、中期前葉の土坑。土器片。

6 黒田遺跡(法楽寺跡)

- (1) 遺跡中央に黒田大塚古墳がある。標高 44mの沖積地
- (2) 調査 古墳第6次調査(墳丘西側排水路設置工事)で、弥生後期～古墳前期の土坑(3)・溝(3)・柱穴(9)。周辺には中期後半～布留式の土器が出土している(遺物包含層)

7 宮古北遺跡

- (1) 位置 標高 47m。保津・宮古遺跡の北西側。保津・宮古遺跡 3・4次調査地と北側が保津・宮古遺跡から分離。
- (2) 調査
 - 1次調査の北東部に弥生前期の土坑群(7)、南東部に土坑群(22)。周囲(9次)からは、縄文晩期の凸帯文土器が出土するが、遺構などは不検出。
 - 1次調査東北部分から弥生後期のピット(17)、小溝(2)、しがらみ(後期後半)小溝(後期末)が検出。9次からは、布留期の溝(4)、土坑(2)、柱穴。
 - 1次調査では、弥生中期～後期の自然流路があり、中期後半土器を中心に当該時期の土器が出土。
 - 古墳前期(庄内・布留期)の土坑(1)・ピット(4)・溝(3)が、1次調査区西側より検出。
 - 1次調査の弥生後期の溝は、保津・宮古遺跡の第10次・18次・14次調査と連結し、総延長 650mの直線斜行する溝の可能性があるとする。
 - 1次調査の2条の溝(南南西―北北東に伸びる直線溝)が8次調査地点でも確認され、1辺 100mの集落を囲む環濠と推定されている。(古墳前期の1万㎡の環濠集落)。

8 十六面・薬王寺遺跡

- (1) 位置 標高 47mの沖積地
- (2) 調査 弥生時代終末期に遺跡南部に墓域が形成され、北西部には集落域を形成。
 - 遺跡北西端の30次・31次調査地では、前期～中期前半の初頭の土坑・溝(土器を含む)、

遺跡中央部の1次調査では中期末～後期初頭の土器が・大溝が検出されるが密度は低い。

- 終末期では、遺跡北西部(30・31次)から複数の住居址、方形周溝墓が検出され、古墳期に継続する墓域を含む集落域になる。
- 遺跡南部の後期河道の東側(6・27・28次)では、中期前半末から終末期にかけ継続して方形周溝墓を形成し、周囲の土坑・溝が検出される。
- 河道西側(11次調査)でも円形周溝墓が検出され、周囲には後期の溝・柱穴(土器含む)など集落遺構がみつかると。

9 保津・宮古遺跡

(1) 位置 筋違道と保津・坂手道が遺跡内を縦横断する位置 標高47mの沖積地

(2) 調査

- 時期不明の河道(幅6m以上深80cm)
- 保津集落の東側11(尖頭器)・14次(縄文後期土坑)から弥生前期の井戸や少量の土器。
- 遺跡南側に前期～中期の集落域。15次(前期土坑)・23次(中期大溝・小溝・土坑)・31次(前期土坑)。遺物量が少ない。
- 遺跡東側では、後期～庄内期の継続する墓域(13・26次・方形周溝墓)
- 後期には、西側に遺構(溝・土坑・井戸)が多く、土器量が多くなる。(3・10・14・18次)特に、14次の東西方向の溝より後期後半の土器が大量に出土し、井戸の検出により南側に居住域の可能性をみる。
- 29次に近接する宮古北遺跡13次から弥生前期土坑と布留期の土坑(1)・落込み(1)、周囲に弥生後期～古墳前期の土器小片が多量に出土。
- 庄内期は、1・13次、布留期は3・8・10・11次に引き続き遺構・遺物。

10 羽子田遺跡

(1) 位置 標高48mの沖積地、南北900m東西500mの縄文・弥生期～古墳時代の複合遺跡。

遺跡の主たる時代は、古墳前期の集落と前期・後期を含む古墳群。

(2) 調査

- 遺跡中央西側(35次前期～中期前半の遺構・土器片・縄文後期の土器片)と河道(幅6m深70cm北西～南東)を挟んで東側に15次河道2条、前期・中期の土器片。
- 遺跡西端(23次保津宮古遺跡近接)と接する。中期中葉の方形周溝墓の溝(1)、中期前半土器。
- 遺跡北端(20次)から中期の方形周溝墓4基。
- 遺跡中央部(5次小学校)は中期～終末期の断続的な集落遺構(複数の井戸・土坑)
- 遺跡中央部(31次32次)では、多くの後期後半の集落遺構(溝・土坑・布留期溝・土坑)
- 遺跡南端(30次)でも後期の堅穴住居(6m円形)
- 遺跡北端(19次)から、庄内～布留期の土坑4基、庄内期の大型土坑に農耕具が多量投棄。

配布資料(3)

1 庄内式土器

豊中市庄内遺跡を標識遺跡とする。庄内式甕の特徴は、底がやや尖っていて、弥生後期の畿内のタタキ技法と吉備地方の内面ケズリ技法により熱効率を重視し薄手で丸底を志向している（布留式土器が底が丸く外面にハケ目調整に特徴）。3C前半を代表する土器で、分布域などの違いにより河内型庄内甕と大和型庄内甕に分類される。

2 編年（歴博 放射性炭素C14測定法資料より）

(1) 纏向4式(布留0式)は、箸墓古墳の築造年代とされ、C14の測定では3世紀中頃(240～260年)に求められている。布留1式は270年前後を含む3世紀後半、布留2式は3世紀末～4世紀前葉とされる。

(2) 庄内0式(1920年¹⁴CBP)で2世紀はじめで、1式は2世紀前半、3式(1880年¹⁴CBP)は2世紀後半から3世紀初頭(200年)。庄内期は、2世紀から3世紀前葉。

(3) 第V様式は、唐古・鍵遺跡資料の測定結果は、1世紀の2000年(14CBP)と報告され、貨泉の出土との整合性がある。中期末(IV様式)は紀元前1世紀(池上曾根遺跡資料)

(C14: 動植物は、C14を含んだ二酸化炭素を取り込み、死後は炭素のやり取りも終了する。その時点からC14は減衰し、試料に残っているC14を測定することによって死後の経過時間が分かる仕組み)

3 倭国大乱

「後漢書 東夷列傳」など中国史書に記載されている弥生時代後期に倭国でおこったとされる騒乱。梁書、隨書などにも記載がある。

「桓 靈間 倭國大亂 更相攻伐 歷年無主 有一女子 名曰卑彌呼 年長不嫁 事鬼神道 能以妖惑衆 於是共立爲王」後漢書東夷列傳 (桓帝・靈帝の治世 146年～189年)

「其國本亦以男子爲王住七八十年 倭國亂 相攻伐歷年 乃共立一女子爲王 名曰卑彌呼 事鬼道 能惑衆 年已長大 無夫婿」三国志魏書東夷傳倭人

4 高地性集落

弥生中～後期に、平地と比高差が30m以上ある山頂部や斜面に形成された集落遺跡で、分布は瀬戸内沿岸・大阪湾岸(中期)と近畿と周辺部(後期)にみられる。軍事的緊張関係を背景に持った防衛的機能を重視する意見が多くみられたが、最近では物流に着目した意見もみられる。倭国大乱の時期とは齟齬がある。

5 メクリ1号墳東側の方形周溝墓群(纏向遺跡第193次現地説明会資料より)

(1) 位置 巻向駅南西の旧纏向小学校跡地、75mの東から派生する扇状地上の微高地

(2) 内容 調査地1区から、方形周溝墓3基・溝・土坑。方形周溝墓4は小規模で、庄内式期。

方形周溝墓5は中規模で布留式期、方形周溝墓6は小規模で庄内期。また、庄内期の方形周溝墓状遺構と溝も検出。

2区(メクリ1号墳東側周濠)からは庄内式土器が出土し、築造時期が特定。

庄内期築造のメクリ1号墳(全長28m前方部長8.8m)を含め同時期前後の方形周溝墓が6基さらに、土器棺墓(2)・木棺墓(4)を含む墓域。

6 拠点集落

集落の発生と消滅という動態を解明し弥生時代の社会構造を復元することを目的に、弥生全期間に継続する集落を拠点集落、持続性を持たない集落を周辺集落(衛星集落)とし、地域単位の遺跡に着目する研究(集落論)のための概念。集落規模(継続性・集住性・環濠の有無など)、生産量とモノの流れ(搬入土器・特殊遺物の量とその流れ)、金属器・土器・石器など道具の保有状況、集落の性格(生業活動圏・周辺集落の有無・祭祀(社会・政治を含む)構造などが拠点集落の類型化する視点となる。

7 田原本町の凸帯文土器を出土する遺跡 (みずほ 豆谷論文より)

(1) 唐古・鍵遺跡 (2)八尾九原遺跡 (3)保津・宮古遺跡 (4) 矢部南遺跡 (5)清水風遺跡
唐古・鍵遺跡では、北地区・西地区・南地区。数は南地区が多いが破片としては小さく磨耗している。北・西地区は破片が大きく磨耗も少なく原形を保っている。

(2) 弥生前期土器を出土した遺跡は、(1)多遺跡 (2)東井上遺跡 (3)保津・宮古遺跡でまとまって出土する。土器片では、八尾九原遺跡、清水風遺跡などでみられる。

唐古・鍵遺跡では、南地区ではみられず、北地区では1次調査例以外みられず西地区では多くみられ、遺構もみられる(8・11・14・19・20・22次)。中央区でも出土している(50・53次)

8 庄内・布留期の唐古・鍵遺跡 (みずほ 豆谷論文より)

(1) 南地区

- ・ 40次・3次・65次・69次・72次・76次で、井戸などが検出されるが、閑散な分布。
- ・ 33次・69次(隣接調査区): 中期後半環濠(幅7m深120cm)→庄内布留溝(幅4m深40cm)
- ・ 40次・47次(隣接調査区): 後期初頭大溝(幅3~5m深100cm)→庄内布留溝(幅5m深50cm)

(2) 西地区

- ・ 11・38次(山陰系壺布留期井戸)・19次(布留期溝・壺棺墓)・79次(東海系土器・土坑)
- ・ 13次(中期後半幅3.7m深1.2m→後期初頭幅3.2m深80cm→庄内布留溝幅2.7m深50cm)
- ・ 31・42次(中期幅9m深1.5m→庄内布留期)

(3) 北地区

- ・ 1次・23・26・5・24・48次(土坑・井戸) および土器が他地区よりも顕著。
- ・ 27次(中期後半幅3.6m深1.4m→布留溝幅3.6m深0.8m)
- ・ 75・78次(中期前半幅2.4m深1.5m→後期初頭幅2.m深1m→庄内布留溝幅2.m深40cm) 他。

